

ずいそう

続・勝手に松本隆論

岩本英司



昨年9月号の〈ずいそう〉で「勝手に松本隆論」と題した原稿を執筆させて頂きました。ロックバンド・はっぴいえんどのドラマーとして活躍した後、歌謡界に身を転じた松本さんが作詞を手掛けた太田裕美さんの『木綿のハンカチーフ』（1975年12月）と斉藤由貴さんの『卒業』（1985年2月）という二つの楽曲に描かれた内容の比較を試みたものです。

二つの楽曲に共通するのは、登場人物が田舎に残る女性と、就職などで上京した東京での生活で心境が変化していく男性であるということです。

離ればなれになることが決まっているのに卒業式では泣かないと気丈にも語る彼女。♪でももっと悲しい瞬間に涙は取っておきたいの～♪と『卒業』で斉藤さんが歌った「悲しい瞬間」とは何だったのでしょうか。その意味が『木綿…』に隠されているのではないかと仮説を立てて、楽曲の時系列を逆転させて考えてみました。

『卒業』の10年前、男女間で往復する書簡形式の歌詞を太田さんの透明感ある歌声にのせた『木綿…』では、彼が楽しい東京での生活から抜け出せず「僕はもう帰れない」と伝えています。その言葉に彼女はこらえていた感情が抑えられなくなったのでしょうか。最後のお願として♪涙拭く木綿のハンカチーフください♪と彼にねだるのです。これこそが『卒業』で歌った「悲しい瞬間」だったのだらうと、それこそ“勝手に”結論づけたのでした。

1. 大きな転機が訪れる

個人的な話で恐縮ですが「勝手に松本隆論」を掲載頂いた直後、自分にとって大きな転機が訪れました。入社以来、東京本社で編集局所属の記者として活動してきましたが、会社に「来年から九州支社に異動してもらうから」と伝えられたのです。初の地方転勤には少々の戸惑いもありましたが、これまでの活動を支社で展開することも一つの挑戦なのだろうと思い、家族のもとを離れて、単身で福岡に居を構えて頑張ってみることにしました。

全国各ブロックにある拠点の中でも東京から一番遠

く、自分にとって縁もゆかりも無かった九州行きにどんな意味があったのでしょうか。それを考えていくうちに不思議な巡り合わせを感じざるを得ませんでした。やはりキーワードとなるのが「松本隆」さんでした。

♪恋人よ僕は旅立つ東へと向かう列車で～♪と歌い出す『木綿のハンカチーフ』は、九州から東京へと出てきた人物をモデルとしているそうです。はっぴいえんど時代の楽曲の数々は、東京で生まれ育った松本さんの実体験をもとにつづられた心象風景でした。「それでは地方の人にはうけない」。九州の炭鉱町で生まれ育った当時のディレクターの指摘を踏まえて描かれたのが『木綿…』の世界観だったとのこと。勝手に松本隆論を書いた直後に命ぜられた九州転勤を『木綿…』になぞらえれば、自分にとってはさながら♪僕は旅立つ西へと向かう飛行機で～♪ということになるのでしょうか。

2. 天神の老舗喫茶店「風街」

もう一点。福岡・天神にある九州支社の近くに創業40年を超える老舗の喫茶店「風街」があることにも、何か不思議な縁を感じました。はっぴいえんどの2枚目のアルバムで今もファンの間で語り継がれる名盤のタイトルは『風街ろまん』（1971年11月）。オーナーが松本さんが音楽雑誌で語った「風街」のコンセプト



喫茶「風街」趣のある看板

に感銘を受けて店名にしたとのエピソードが残されています。

今はビルの1～2階に構える喫茶『風街』ですが、壁にレンガがあしらわれており、以前の店舗の雰囲気をそのまま残しているとか。店名に誘われるように、福岡を訪れた松本さんやはっぴいえんどメンバーの細野晴臣さんもふらっと立ち寄ったことがあるという話もあります。私も仕事帰りに一度だけですが、お店にお邪魔して珈琲を頂きました。

3. 夜明けの来ない夜は無い

1月の赴任後、新型コロナウイルスの感染が世界規模で広まり始めると、支社での活動も徐々に制限されるようになりました。そして4月に政府から緊急事態宣言が発出されると在宅でのテレワークの機会が多くなり、まだ慣れない九州の街を歩いて回ることもできなくなりました。帰省で東京の自宅に戻ることもままならなくなり、知り合いも少ない福岡で一人過ごす時間が増えていきました。

そうした中、作詞家活動50年を迎え、今は神戸に拠点を移している松本さんの呼びかけで「瑠璃色の地球～コーラス」と題したプロジェクトが始まりました。松田聖子さんが1986年6月に発表したアルバム『SUPREME』に収録した楽曲を大勢の市民も参加して動画サイトyoutubeで歌いつないでいく取り組みでした。

コロナの猛威にさらされる状況下、明るい未来を示すと多くの人たちの共感を集めた楽曲を一般市民の参加を得て完成させた動画について、松本さんは「プロ、アマ、性別、年齢を問わず、多くの人に参加してくれた。神戸発の力強い動画が完成した」(神戸新聞)と語っています。

♪夜明けの来ない夜は無いさ～♪と松本さんがつづった歌詞。仏教の七宝の一つで、紫みを帯びた濃い青色を表現する「瑠璃色」に込めた思いが34年の時を経た今、コロナ禍で不透明感が漂う世の中に、静かにも大きな意味を持って私たちに希望を与えてくれています。

——いわもと えいじ (株)日刊建設工業新聞社 九州支社長——

